

「摂食嚥下の機能解剖」

医療法人 須藤歯科診療所

須藤健太郎

「解剖学は複雑で苦手」「漢字ばかりで名前を覚える気になれない」「立体的にイメージができない」と歯科関係者から耳にすることが時にあります。確かに、骨学・筋学・脈管学・神経学と続いていくなかで、その複雑さに戸惑い、難しいと感じる部分はあるかもしれません。しかし、人体のそれぞれの部位における解剖学的な形態には、適切に機能するための重要な意味があります。

今回は摂食嚥下という普段の食事をする際の一連の機能と解剖学形態をリンクさせながら、「口腔内に入った食品は、どの粘膜で、どの感覚神経によって感じているか?」「咀嚼から嚥下に至る動きは、どの筋によって行われているか?」「その筋はどの神経にコントロールされているか?」「その食塊がある周囲に分布する脈管は?」などについて、東京歯科大学解剖学講座所蔵の画像資料をもとに解説します。

解剖学について、部位名称を覚えるだけの学問として捉えず、「機能解剖学」という観点から学習し、頭頸部の形態に関する理解を深めて頂ければと思います。

(略歴)

氏名 須藤健太郎(スドウ ケンタロウ)

平成 10 年 東京歯科大学 歯学部卒業

平成 14 年 東京歯科大学 大学院修了(解剖学専攻)

平成 14 年 東京歯科大学 研究助手

平成 15 年 須藤歯科診療所

現在に至る